

インターミディエーター講座

— 「あいだ」をめぐる知と方法 —



・現代社会の複雑な問題群に対し、多様なアクターが連携・協働して、いい結果を出すことは分野を超えたテーマになりました。しかし、ほとんどの行政、企業、大学は相変わらず専門閉塞型か、タテ割り中心です。

・こうした中、たがいの違いを十分に認めながら、創造的なチームやグループを形成し、より望ましい関係変化と多様なアウトカムを生み出すのが「インターミディエーター (intermediator)」です。

・その役割は、①発見的な〈協働の場〉をつくりだすこと。中でも、ますます重要になっていく「人間と機械と自然の協働」に積極関与することです。でなければ、それぞれの領域のポスが生まれ、個々の閉ざされた論理で動くばかりです。そこで、②他者との対話を通じて、自己完結しない知をつくりだし、さらに、③このプロセスで、4C (Care, Co-learning, Cross-innovation, Co-becoming) が生じていく環境をつくることも重要な役割です。Co-becomingとは、参加・関与する人々のあいだで、回復や成長、再生や創発といった人間的变化がともに発生していく現象を指します。では、本プログラムの第一幕は、なぜ指示待ち人間が存在するのか、から——。次を創る方々の参加を期待しています。

プログラム	5/23 : 13:30 ~ 15:30 6/13, 6/25 : 10:00 ~ 17:00 (ランチをはさみます)
	Intro
§ 1 「インターミディエーター」とは	5/23 Fri.
§ 2 マインドセット (1) 3分法思考と多元的思考	前半 6/13 Fri.
§ 3 マインドセット (2) 多様性・複雑性許容と対話能力	
§ 4 マインドセット (3) エンゲイジメント能力と4つの 'active'	
§ 5 マインドセット (4) エンパシー能力とエンパワリング能力	後半 6/25 Wed.
§ 6 マインドセット (5) 物語り能力 (narrative competence)	
§ 7 CODA: 「開かれた対話と創造の場」へ	

リーダーこそが、指示待ち人間を再生産する

●講師・監修

設楽 剛 (Go Shidara, Ph.D.)

設楽剛事務所 代表

慶應義塾大学 博士 [政策・メディア]

●慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科修了後、シンクタンクにて、ビジネス・フィロソフィーの変革を推進。LINE (株)の母体企業ハンゲームジャパン(株)の創設メンバー、初代チーフ・マーケティング・オフィサー (CMO) 兼 副社長を経て、設楽剛事務所を設立。今後の大きな方向をイメージできるよう、先見的対話を重視。生命論を基調に、人間と環境にとって重要な認識枠組み、思考、語彙の導入・形成に取り組んでいる。エンパワリング効果多数。併せて存在のドラマを描くこと、物事の境界を問う境界芸術が活動の焦点。

●論文 (査読付) に、「物語ブランディングの政策効果」(政策情報学会)、「ブランディングにおける物語効果」(情報文化学会)。●公式サイト: archipelagos.jp



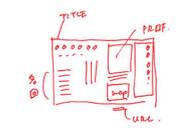
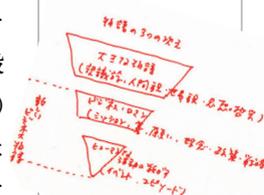
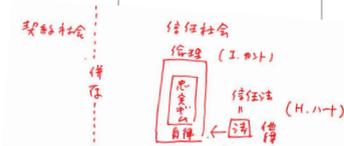
会場 公益財団法人 国際文化会館

106-0032 東京都港区六本木 5-11-16

電話: 03-3470-4611 URL: i-house.or.jp

●お問い合わせ・お申込み: ウェブよりご連絡ください

intermediator.jp/contact



もはや革新的な物語を語るだけでは、不十分です。あらゆる物語の革新を、物語をもって革新を。